検査等申込 兼 保険情報送信様式 (FAX用)

紹介先
医療法人社団相和会 浜野辺総合病院
メディカルサポートセンター
地域医療連携課 医療連携係
TEL 042-754-3302 (直通)
FAX 042-754-3323 (直通)

紹介元
医療機関名
医師名
TEL
FAX

※太枠内をご記入ください。項目・必要箇所は、マル○ または ☑ をお願いいたします。 開放登録医

フリガナ		性別	TEL	連絡の取れる電話番号をお願いいたします	浜野 辺 総合 病院 記入 欄
患者氏名		男・女			
生年月日	大 昭 平 令 年 月 日 歳	様	住所	〒	
浜野辺総合病院受診歴 有 ・ 無 診察券番号 ()					

傷病名		受付日 /
検査目的	※記入せず、診療情報提供書のFAXでも結構です	

予約 項目	予約日時： 月 日 () 時 分	予約内容 確認者 (連携室)
診察	診療科 科 予約医師	
CT	☒ 単 純 ・ 造 影 撮影部位 造影の場合 検査日 (/) eGFR > 又は (Cr : mg/dl)	内視鏡医 確認印
MRI	※アレルギー対応や撮影方法等、遠慮なくお問い合わせください	
エコー	撮影部位	依頼
胃カメラ	経鼻 ・ 経口 適応があった場合の尿素呼吸試験 実施可 ・ 不可 ※組織検査をした場合は結果郵送までに、2週間程お時間をいただきます。検査所見のみ先行FAXも可能ですので、ご所望ください。	
その他	マンモグラフィー ・ 骨塩定量 ・ 栄養指導 ・ ()	結果

画像のご希望媒体	フィルム ・ CD-R ・ プリント ・ 画像不要(レポートのみ)
CT/MRI 特記指示	☐ 当日、画像の患者手渡しを希望 ※特記指示がない場合は後日郵送いたします

- ・ 当日の持ちもの
診療情報提供書、健康保険証、診察券(お持ちの方)、検査に必要な書類(同意書、問診票)、お薬手帳
- ・ ご不明点は、地域医療連携課へお問い合わせください。

CT検査予約票

フリガナ		性別	生年月日 大 昭 平 令
氏名		男・女	年 月 日
予約日時	年 月 日 () 時 分 ※予約時間の20分前までに受付をして、1階の放射線科受付へお越し下さい		
持ちもの	☐ 紹介状 ☐ 健康保険証 ☐ 診察券(お持ちの方) ☐ 検査予約票 ☐ お薬手帳 ☐ 被ばくに関する説明書 ☐ 造影検査 説明・同意書(造影検査の方)		

◎ 注意事項をよくお読みください

- ・妊娠中の方、疑いのある方は主治医にご相談ください。
- ・造影検査を受けられる方で糖尿病薬を使用している方は、主治医にご相談ください。
その他の内服薬の服用についても主治医にご相談ください。
- ・ウイルス性感染症、水痘・带状疱疹等の皮膚疾患の診断を受けた場合は事前に泌尿野辺総合病院放射線室までご連絡ください。
- ・ヘアピン、ネックレス、湿布、カイロなど、撮影部位により外していただきます。
- ・検査内容によって検査着に着替えていただきます。
- ・救急、重症患者さんの対応などにより検査開始時間が前後する場合がありますのでご了承ください。
- ・ご予約の変更は、紹介元の医療機関へご連絡ください。

検査	食べ物	飲み物
造影なし ※腹部以外	制限はありません	制限はありません
造影検査 腹部検査	検査の4時間前までに済ませてください	乳製品を含まない水・お茶に限り積極的に飲みください

医療法人社団 相和会 泌尿野辺総合病院

〒252-0206 相模原市中央区淵野辺3-2-8

TEL 042-754-2222(代)

2025年6月 改訂

CTによる医療放射線被ばくに関する説明書

検査種類: CT (頭部・頸部・胸部・腹部・胸腹部・四肢・その他_____)

検査実施施設: 瀏野辺総合病院

検査予定日: 西暦 年 月 日

- 検査目的: 病巣の有無確認・鑑別
 治療法検討のための精査
 治療効果の確認
 治療後の経過観察
 その他:

(説明内容)

この度実施するCTを利用する検査、診療は検査部位の病気の有無確認、診断、治療効果、治療後の病気の状態を確認するために行う放射線を使用した検査及び診療です。

放射線を利用した診療は患者さんに多大な診療上の利益をもたらす一方、放射線被ばくによる健康影響への潜在的な危険も懸念されます。当院における検査では脱毛や皮膚紅斑などの組織反応(確定的影響)が起きる線量以下の低線量被ばくがほぼすべてですが、低線量被ばくによるがんの発生(確率的影響)は、近年の大規模な研究により診断目的の低線量被ばくにおいても発生頻度がわずかに上昇するとの報告がみられるようになってきました。従って診療においても放射線被ばく(医療被ばく)はできるだけ低く抑えることが必要になっています。

放射線防護は正当化、最適化、線量限度の3原則からなります(国際放射線防護委員会:ICRP)。正当化とは検査等による診療上の利益が被ばくによる不利益を上回ることを保証することで、診療を担当する医師が診療上の必要性から判断します。最適化とは診療に影響が出ない範囲でできるだけ照射する線量を低く抑えることで、検査計画の検討及び検査時の調整により行います。一方、がんの発生リスクは放射線被ばくによりわずかに上昇しますが必ず発生するわけではなく、他に様々な因子も関わり複合的な原因で発生します。また、仮にがんが発生する場合でも被ばく直後ではなく、数年から数十年後といわれています。このため線量限度は現時点で問題となっている疾患の診療を制限する可能性があるため、医療被ばくに対して線量限度は適用されません。

当院では機種選定の際に被ばく線量の少ないことを重視して機種を選定し、運用に際してもCTなど比較的被ばくが多めの検査では被ばく線量を継続監視し、国内で広くデータを解析している多くの関連学会、団体により構成された医療被ばく研究情報ネットワーク(J-RIME)による診断参考レベル(DRL)を参考に定期的に検査時の放射線線量を調整しています。また、院内関連職種で医療放射線管理委員会を組織し、医療被ばくの管理を行っています。医療被ばくの影響が疑われた場合、ご質問がある場合などは院内に対応体制がありますのでお近くの職員にお問い合わせください。

※ 検査当日はこの用紙も放射線科受付までお持ちいただくようお願いします

TEL:042-754-2222(代)
放射線科(内線:1153)